

(1) 5G時代におけるネットワーク提供に係る課題についての検討関係

① MVNOによる5Gの円滑な提供開始

- 5Gについては、来年春のサービス提供開始が見込まれるところ、MNOとMVNOの公正競争確保の観点から、MVNOにおいても利用者への提供を円滑に開始できるようにすることが重要と考えられます。
- 御社における5Gの利用者への提供予定(提供開始時期、利用者料金設定の考え方等)、MVNOへの開放予定(開放開始時期、設備改修等開放開始までのスケジュール、接続料設定の考え方等)について、具体的にご説明願います。

② MNOとMVNOの競争環境の一層の整備

- 4Gから5Gへの移行は、LTE基地局と連携する構成から5G単独の構成へ段階的に移行することが想定され、それに伴い、ネットワークの仮想化やスライシング導入、クラウド等他者設備利用の拡大、様々な形態の事業者間連携等の環境変化も進展していくことが想定されます。こうした環境変化の進展とその対応については、「IPネットワーク設備委員会」次世代競争ルール検討WGにおいて検討が行われていますが、二種指定制度における規律の観点からも、アンバンドル機能、接続料の算定方法等、生じ得ることが想定される課題について、現時点で検討しておく点がないか確認する必要があると考えられます。
- 御社における仮想化の進展等による他者設備利用の形態、時期についての見通し、スライシングの活用形態、時期の見通し、また、想定される新たな事業者間連携の形態、時期について、具体的にご説明願います。また、そうした環境変化により生じることが想定される二種指定制度における規律(アンバンドル機能、接続料算定方法等)に関する課題について、ご見解をご説明願います。

③ eSIMの普及への対応

- eSIMについては、IoT向けのみならずスマートフォンにおいても搭載端末が今後増加することが見込まれており、また、海外では既に多くの通信事業者がeSIMに対応したサービスを提供しているところ、日本では現時点でMVNOのIIJが提供しているのみとなっています。今後、例えば、2020年オリパラ大会等を契機として、訪日外国人が日本国内における通信契約をeSIMにより簡便に行うといったニーズが高まることに加え、eSIMによる2回線目の利用等の新たなニーズが生まれてくるものと考えられますが、eSIMの普及に伴い、日本国内のMNOにおいても、eSIM対応サービスの開始が期待されること、MNOとMVNOとの公正競争の促進及び利用者利便向上の観点から、MVNOが同様のサービスを行うことができるよう、適切な機能開放について、検討を行うことが必要ではないかと考えられます。
- 御社におけるRSPによるeSIM活用の考え方、活用の状況、さらに、RSPのMVNOへの開放の考え方について、具体的にご説明願います。また、対応端末の開発状況についてもご教示願います。

(2) モバイル検討会フォローアップ関係

- モバイル研究会中間報告書(2019年4月)では、モバイル市場の公正競争促進に課する検討会報告書(2018年4月)の指摘を踏まえた取組の実施状況について、フォローアップを行っています。当該取組について、現在の実施状況をご説明願います。

- モバイル研究会中間報告書第6章の「図表9」の各事項について、現在の実施状況を説明した資料をご用意ください。
- MNP手続きの簡素化について、現在の実施状況を別添の様式に従って記載ください。
- SIMロック解除について、現在の実施状況を別添の様式に従って記載ください。